

みんなで作る あたらしいまちのかたち

真駒内というまち

豊かな緑が広がり、真駒内川が流れる原始林を拓いて創設された真駒内種畜場は、後年の酪農王国北海道の礎となり

当時、全国2位の規模を誇った真駒内団地は画期的な近代設備の採用によって住宅団地の先鞭をつけ

真駒内を舞台に多くの競技が行われた日本初の冬季オリンピックは札幌全体の街並みを大きく変えるきっかけとなりました

真駒内を築き上げた歴史は、北国の街らしい魅力として、今も残っています

わたしたちのまち

実際に歩いてみて、見てくるものがありました。



マンション群を背景とする歩道は、登下校の児童や買い物中の主婦等、幅広い層の人が歩いています。

メインストリートから団地集合地帯へ入ると、閑散とした商店街や、お年寄りの姿が多く見られます。

開拓期から今も変わらずに残っている場所が、まちの至る所に点在しています。



移動拠点として多くの人々が利用する駐輪場は、自転車を収容しきれず、歩行を妨げています。

駅の中には、小さな店舗が集まっており、所々で、ちょっとした人々の滞留が生じています。

駅裏の桜山は、静かな森を気軽に散策でき、ジョギング中の学生とすれ違うこともあります。



駅の屋根いっぱいに広がるデッキでは、まちと自然の境界でゆっくりとした時間をすごすことができます。

新しい駅には、桜山からまちを一望できるデッキがあります。祭の夜、そこから花火を眺めます。



祭のとき、駅の中にはいつもと違った賑わいが見られます。

駅前の通りは広場になり、屋根の下には出店が連なります。

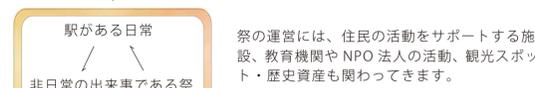
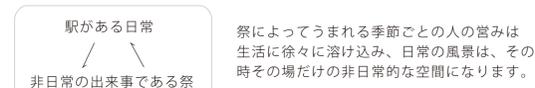
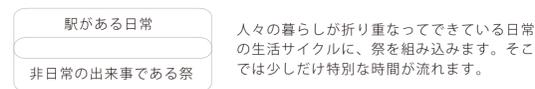
人々の生活の断片や、地域が持つポテンシャルがまちの中にたくさん散らばっているものの、それぞれが重なることはなく、独立している印象を受けます。

みんなで作るまち

真駒内に暮らす人々が、もっとまちを歩きたくなるきっかけ、生活の断片が重なって共有できるしくみ作りを目的に、「歩道」「駅」「祭」の3つを提案します。

- 1. くらしが重なる歩道
駐輪場を駅へ移設して歩道を整理し、屋根をかけ、滞留がうまれるデザインを施します。
- 2. 森とまちをつなぐ駅
1971年に開設し、建群の時期を迎える真駒内駅を、森とまちをつなぐ駅へと新たに設計します。
- 3. 特別な時間が流れる祭
真駒内の歴史・季節をコンセプトとした、駅を中心に広がる祭を計画します。

それぞれに人々の小さなアクティビティを持つ3つの提案。そこから生まれる日常と非日常のシーンは、交わり合いながら新たな真駒内の魅力をつくります。



生活の拠点 住民の活動をサポートする器	団体・取り組み 各々の拠点を生かしたまちづくり	観光・歴史資産 南区全体への広がり
南区民センター まちづくりセンター 南区役所 南保健センター	札幌市立大学 COC事業 NPO法人 ・森の回廊基金 ・MINNAの会 ...etc	芸術の森 滝野すずらん公園 真駒内公園 エドウィン・ダン記念公園 ...etc
南区民センターでは、曜日ごと時 間ごとに入れ替わりで、多くの サークル活動が行われています。	札幌市立大学では、学生を中心 にワークショップ等で、地域の声 を取り入れる試みを行っています。	芸術の森には美術館の他、音楽 ホールや工房等があり、多様な アクティビティを創出します。

真駒内に位置する札幌市南区は、消滅可能性都市の一つとなっています。30年先の2040年、さらにその先の未来を考えたときに大規模な計画や人口の増加を目的とするのではなく、真駒内に暮らす人々の生活の豊かさ、活気こそ大切であると感じました。

本提案を通して真駒内の魅力を再考することで人々の生活に根付くしくみが新たに生まれると考えます。



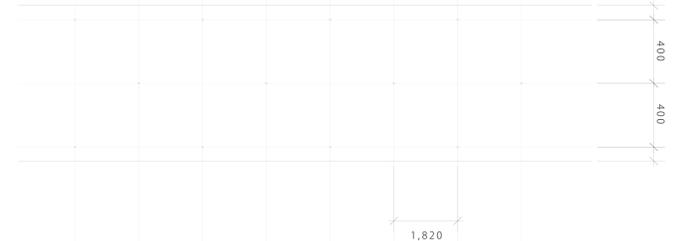
歩道にかかる屋根は、豊かに広がる緑を保ちつつ、歩行者のアクティビティと滞留を促します。ボックスが配置された駅は、自由に移動しながら自然に触れることができます。



真駒内駅を移動の拠点として、バスは各方面に出発していきます。

歩道にかかる屋根 1:100

高さ3000mmの高さにかけられた屋根は、尺貫法に基づいて決められたピッチで建つ柱によって支えられています。祭のときには、それを頼りにテントを組み立て、出店が開かれます。



周辺地域の農家、サークルの集まり、子ども会、飲食店など、地域の人はもちろん、真駒内で魅力を発信したいという想いを持った人が、祭に参加し、店をひろげます。

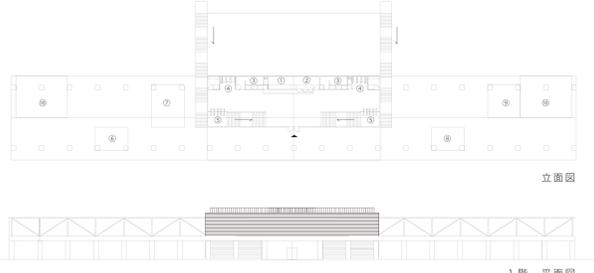
冬になり、雪が積もれば、桜山でキャンドルナイトを開催します。

いつものバス乗り場にはやぐらが建ち、みんなが周りに集まります。

駅舎図面 1:750

外部の柱のピッチが踏襲された駅構内には、それを拠り所として、既存の駅舎にある機能をおさめたボックスが点在しています。更に、大規模な駐輪場を設置することで、屋外に溢れる自転車の問題を緩和します。

- ① 駅員待合室
- ② 定期券売り場
- ③ 待合室
- ④ 化粧室
- ⑤ 改札
- ⑥ コンビニ
- ⑦ 花壇
- ⑧ 本屋
- ⑨ 軽食屋
- ⑩ 自転車置き場



立面図

1階 平面図